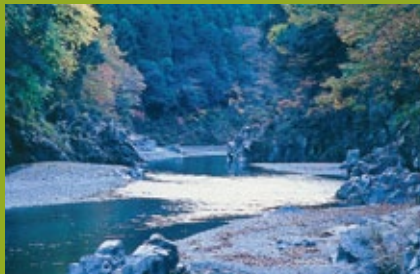


奥多摩の清々しい感性が、かたちになった……川辺の美術館。



JR青梅線御嶽駅で下車。
四季の風を感じながら多摩川沿いの遊歩道を上流へ歩くこと約20分。左手に奥多摩フィッシングセンターを望みながら御嶽美術館を過ぎると樺・楓・杉などの木々に囲まれた民家風の建物が視界に飛び込んできます。ここが、「せせらぎの里美術館」です。
建築後約150年の奥多摩の民家を一部移築したもので、内部には囲炉裏もあり作品の鑑賞と同時に、ひとときのやすらぎの空間として周囲の風景とともにくつろいでいただけます。
多摩地域に縁のある作家の作品を主体に、企画展を常時開催しております。



自然の巨大石をそのまま生かした展示室。

木造りの美術館

樹齢数百年の樺の大黒柱、
鉾で削った松の梁、
そして白い漆喰の壁。
囲炉裏端から、
ふと外を見ると多摩川の流れ。
あ、目の前を横切った鳥がいる。
ヤマセミだ。
作家が思いを込めて描き創造した
作品と奥多摩の自然。
なぜこんなに溶けあうのでしょうか。



館内は暖かな灯りにつまれ、囲炉裏を囲み、腰掛けながら気軽に休めます。



館内からは、四季の移り変わりが感じられます。

奥多摩を伝えたい

数十年後、孫子の時代になって初めて成果を得られる山仕事。急な斜面での畑仕事。厳しい自然と相談しながら、自然への尊敬と思いを込め連綿と続いてきた奥多摩の人々の暮らし。
そんな奥多摩で醸成された文化を少しでも伝えたい。

